
ラウンジ -another

久世はるや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラウンジ - another

【Nコード】

N3415P

【作者名】

久世はるや

【あらすじ】

「6月、梅雨、携帯電話」をテーマに。
年上の彼女、女の子視点。

「ケータイばかりいじってないで本でも読んだら？ 少年」

あたしは何の前振りもなく文庫本から顔を上げて、後輩くんにつこり笑いかけた。

ちょうど2限が空いてる日だったというのに、今日は雨。というか、昨日も一昨日もその前も雨だった。そう、梅雨。だからあたしはラウンジでゆっくり本を読んだ。可愛い後輩くんが途中でやってきて正面に座ったのには気付いてたけど、あえて黙っててみた。

でもこの子ってばちらちらあたしのこと見ながらケータイ触ってるもんだから、ちょっとちよっかい出してみようかな、とまあそんなわけで。

彼はひどくびっくりした顔をして、いよいよじつとあたしを見てきた。

「……何よ。あたしの顔そんなに変？」

「い、いえ、すみません」

「ま、いいけど。それで、君は本とか読まないの？」

「いや、人並みには読みますけど……先輩こそ、貴女が読書なんかしてるところ、初めて見ましたよ」

「梅雨だからよ」

あたしは、断言した。

「もう6月でしょ。雨も続いている。つまり梅雨よ。だからあたしは本を読むの」

「梅雨、だから、本を読む？」

「そ」

あたしが笑うと、彼は、ほんとうに啞然としているようだった。

せっかくスタイリッシュにセットした髪もちよっとへたれて見えて。

黒地のポロシャツの襟が中途半端に折れていて。

両手はケータイを握っているのに妙に行き場がなさそうで。

彼は、困っていた。

「だから君も本を読みなさい。そうじゃなきゃそのステキなケータイねじ切るわよ」

「ねじ切る、って……」

「こう、画面のほうとボタンのほう持って、ぐいって」

雑巾を絞るみたいに手を動かしてみせると、本気にしたのか何なのか、彼はケータイをさつと鞆の中に突っ込んだ。

ああ、もう、ほんとに可愛い。でも、可笑しい。あたしは声をあげて笑い、本を伏せて置いた。

後輩くんは耳まで真っ赤になりながら、あたしの本を指さして訊く。
……照れ隠しだ。

「先輩は、何を読んでらっしゃるんですか」

「んー？ なかはらちゅーや」

「……………」

「知ってるでしょ、汚れっちまった悲しみに……って。ぴったりじゃない」

言うてから、何がぴったりなんだか、って内心で自己突っ込みを入れてみた。

これが梅雨の詩じゃないし、あたしはちっとも孤独じゃない。

だってあたしには、可愛くて素直な後輩、あたしの大好きな彼がいるから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3415p/>

ラウンジ -another

2010年12月10日19時51分発行